

多機能型高分解能核磁気共鳴システムの賃貸借 仕様書（案）にかかる意見招請の結果について

項番	該当箇所			意見内容		修正有無	回答
	頁	項目番号	該当部分	修正案	理由・質問		
1	2及び5	4.仕様(1) 1.多機能型高分解能核磁気共鳴システム（400MHz） イ)超伝導マグネット（自己遮蔽型）⑦ 2.多機能型高分解能核磁気共鳴システム（600MHz） イ)超伝導マグネット（自己遮蔽型）⑦	冷媒を入れた状態での輸送、搬入、据え付け（コールドシップ）ができること。	-	仕様書の5.その他(1)、(3)に記載されているように装置立ち上げ時と撤去時に必要な冷媒は納入者が対応することになりますので、装置立ち上げ前に関するこちらの機能が必須となる理由をご教授いただけますと幸いです。 弊社では超伝導磁石を海外で製造し、空輸する関係で冷媒を入れた状態での輸送、搬入、据え付けを想定していない構造となっております。そのため弊社の場合、立ち上げの際に冷媒充填にプラス1日必要となりますが、その後の調整工程が短いため装置入れ替えに伴うダウンタイムは短くなっております。	無	冷媒充填予冷済み状態での搬送を指定しない場合、マグネットの堅牢性が低く、耐震性に弱いマグネットとなる可能性があるため、大地震等の災害に対応可能な設計であるかの一つの指標として、「冷媒充填、予冷済み状態での輸送、搬入、据え付けができること」、つまり「輸送時の振動に耐えられる強度設計であること」を仕様に入れてあります。
2	4及び8	4.仕様(1) 1.多機能型高分解能核磁気共鳴システム（400MHz） ト)液体ヘリウム及び液体窒素蒸発抑制装置② 2.多機能型高分解能核磁気共鳴システム（600MHz） ト)液体ヘリウム及び液体窒素蒸発抑制装置②	液体ヘリウム蒸発抑制能力は、180cc/時以上であること。	有	液体ヘリウムと液体窒素の蒸発防止機能を合わせ持つ装置のご提案は可能ですが、今回の仕様書案では液体ヘリウム蒸発防止装置と液体窒素蒸発防止装置各1台ずつの構成にしております。 昨今の電気代の高騰によるランニングコスト削減が必要となった場合を考え、充填頻度の低い液体ヘリウムの蒸発防止装置の稼働停止が可能となる仕様は如何でしょうか。なお、液体ヘリウム蒸発防止装置を停止した場合にも弊社マグネットは液体ヘリウムの消費量を抑えた仕様のためランニングコストを抑えることができるという利点もございます。 弊社が提出いたしました仕様書での液体ヘリウム蒸発防止能力は40 cc/時以上になります。弊社マグネットの液体ヘリウム蒸発量が13 cc/時(400MHz)と16 cc/時(600MHz)になりますので、液体ヘリウム蒸発防止能力としては40 cc/時であれば充分であるかと存じますが如何でしょうか。加えて液体ヘリウム蒸発防止能力が低いほど必要なチラーサイズは小さくなります。そのため消費電力が減り、ランニングコストの削減にもつながります。	有	液体ヘリウム蒸発防止抑制能力は、マグネットの液体ヘリウムの蒸発量を十分上回っていれば十分かと思えます。よって、仕様内容を「液体ヘリウム蒸発抑制能力は、マグネットの液体ヘリウムの蒸発量を十分上回っているものであること。」と修正します。
3	2及5	4.仕様(1) 1.多機能型高分解能核磁気共鳴システム（400MHz） ハ)溶液試料用5mm高感度オートチューンプローブ 2.多機能型高分解能核磁気共鳴システム（600MHz） ハ)溶液試料用5mm高感度オートチューンプローブ	溶液試料用5mm高感度オートチューンプローブ	有	弊社の三重共鳴プローブは二重共鳴との切り替え機能はございませんが、いただいた仕様書案と遜色ない感度での測定が可能です。加えてデカップリングでの測定の際にも高感度の測定結果を得ることが可能です。	無	二重共鳴での通常測定と三重共鳴でのデカップリング測定の使い分けが必要なため、自動切換えとすることでプローブ付け替えの手間が減り、作業効率が上がられると考えています。 また、三重共鳴でのデカップリング測定の際の感度は二重共鳴での測定よりもやや劣ることが想定され、通常測定においてより高感度の測定結果を得るためには二重共鳴と三重共鳴の自動切換えできることが必要であることから仕様書に記載しています。
4	3及び6	4.仕様(1) 1.多機能型高分解能核磁気共鳴システム（400MHz） ヘ)データ処理システム 2.多機能型高分解能核磁気共鳴システム（600MHz） ホ)データ処理システム	データ処理システム	有	核磁気共鳴システムを適正な状態でお使いいただく為に、定期的に装置の性能試験の実施や基準値からの乖離の際に校正を自動で行う機能を持つソフトウェアが搭載されております。これらにより常に適正な状態での装置運用が可能となりますが如何でしょうか。	無	追加の仕様であるため、仕様書の内容変更は致しません。
5	8	4.仕様 (2)保守業務	保守業務	有	リモートモニタリングの項目を追加しております。これにより装置を重篤な問題が生じることを未然に防ぐことが可能となります。	無	ネットワークに繋がっていない状態での機器使用を想定しています。